

## 共同体の生存要因としてのコミュニティ構造

建築史中谷研究室 The Believers ゼミ

－シェーカー教コミュニティを通して－

1X15A133-2 福居 彩未

### 目次構成

#### 【序論】

##### 第1章 本研究について

- 1-1 はじめに
- 1-2 研究目的
- 1-3 共同体の種類
- 1-4 シェーカー教の概要
- 1-5 既往研究と本研究の位置付け
- 1-6 研究対象の選定と研究方法

##### 第2章 分析方法について

- 2-1 コミュニティカード
- 2-2 コミュニティ年表
- 2-3 コミュニティ地図

#### 【本論】

##### 第3章 コミュニティ創立の経緯と持続性への影響

- 3-1 シェーカー教コミュニティ創立の背景
- 3-2 創立時期と宗教運動の影響
  - 3-2-1 創立時期区分ごとの創立要因の傾向
  - 3-2-2 宗教運動と持続性の関係
- 3-3 コミュニティの創立地域による特色
  - 3-3-1 監督局と地域区分の関係性
  - 3-3-2 監督局・拠点コミュニティと持続性の関係
- 3-4 小結

##### 第4章 コミュニティ運営の諸要素にみる多様性

- 4-1 人口構成
  - 4-1-1 人口規模と持続性の関係
  - 4-1-2 男女比と年齢構成の偏向が持続性に与える影響
- 4-2 コミュニティの周辺環境
  - 4-2-1 水源の必要性
  - 4-2-2 農地の確保
- 4-3 生業
  - 4-3-1 コミュニティの生業の傾向と特殊例
  - 4-3-2 産業における俗世の人間との接触
- 4-4 財政運営における問題点と対策
  - 4-4-1 トラストイーによる財政運用・管理の問題点
  - 4-4-2 財政運営における工夫
- 4-5 小結

##### 第5章 コミュニティ解体の経緯

- 5-1 解体の経緯の傾向
- 5-2 コミュニティの解体が他のコミュニティに与える影響
- 5-3 小結

##### 第6章 考察と今後の展望

- 6-1 第3章の考察
- 6-2 第4章の考察
- 6-3 第5章の考察
- 6-4 全体の考察
- 6-5 今後の展望

#### 【結論】

##### 第7章 結論

- 結論
- 謝辞
- 図版出典
- 参考文献

### 序論

#### 第1章 本研究について

##### 研究背景と目的

シェーカー教コミュニティはこれらの共同体の中でも例外的に100年前後という長期間持続し、コミュニティ総数も20を超える大規模な一派であった。

一般に共同体研究において、シェーカー教コミュニティのような宗教共同体は宗教教義の存在によって共同体運営に強い結束力を持ち、長期持続しやすいとされている。しかし、各シェーカー教コミュニティを個別にみてゆくと、20年に満たない短期間で解体したのも複数存在する。このように短命なコミュニティにも焦点を当てながら、シェーカー教コミュニティ全体を再評価することを本研究の目的とする。

##### 共同体の種類・研究対象について

既往の共同体研究においても引用されている歴史学者のYaacov Oved（1929-）の著書『Two Hundred Years of American Communes』（Transaction Publishers,1987）にて研究対象とされたアメリカに存在したユートピア思想を掲げた277の共同体のうち、宗教共同体に分類されるシェーカー教コミュニティ26箇所から、シェーカー教コミュニティと断定できなかった共同体とシェーカー教以外との複合コミュニティを除いた計24箇所を調査対象とした。

シェーカー教は創設者のMother Ann Leeに由来する、男女の交流を厳しく制限する戒律や共有財産法、平等労働制を定めた教義ののっとり共同生活を行うコミュニティを、18世紀末から19世紀にアメリカの中・東・南部に形成した。

##### 既往研究と本研究の位置付け

(共同体研究)

1.Richard Sosis, Eric R. Bressler, "Cooperation and Commune Longevity: A Test of the Costly Signaling Theory of Religion,"

宗教共同体が長期持続する原因として、共同体に参加する為に多くの制限を受け、また信仰心を偽ることが難しいために、共同体の結束を弱める者が自然に排除される傾向を指摘する。

2.Christoph Brumann, "Religious Consensus and Secular Dissent -Two Alternative Paths to Survival for Utopian Communes,"

シェーカー教を含む43種類の共同体をキリスト教・非キリスト教宗教・無宗教の3パターンに分類し、持続年数による評価を行う。シェーカー教のような異端的宗教共同体の場合は厳しい禁欲規則が長期持続に繋がるとする。

(シェーカー教コミュニティ研究)

3.William Sims Bainbridge, "Shaker Demographics 1840-1900: An Example of the Use of U.S. Census Enumeration Schedules,"

22のシェーカーコミュニティにおいて、国勢調査のマイクロフィルムから抽出した記録から、特定時期の人口統計、外国人の割合、年齢構成、男女比についてまとめる。

4.F.Gerald Ham, "Shakerism in the Old West,"

ケンタッキー・オハイオ・インディアナ周辺での一部シェーカー教の活動について、コミュニティ運営における宗教教義の功利に加えて、人口構成の変化や財政状況とコミュニティの衰退の関係を示す。

既往研究においてはコミュニティごとに異なる立地環境や俗世との関係のような宗教教義とは切り離された実際的な要素を分析する研究が不足している。本研究がその不足部分を補うものになると考える。

##### 研究方法

- ・各コミュニティについて、調査項目を創立、運営、解体の大項目に沿って一覧化し、図版、地図、航空写真と合わせてカード作成
- ・コミュニティ年表と地図の作成
- ・カードの大項目ごとのコミュニティ比較分析

カードの項目	
[ 創立 ]	[ 運営 ]
創立 / 解体年	最盛年・人数
創立の経緯	ファミリー数・ファミリー名称
創立に関係した宗教運動	土地面積と状態
教区	水源
その他創立に関連する詳細事項	生業
[ 衰退 ]	外部との接触
衰退の経緯	財政
解体後の教徒の移籍	

### 第2章 分析方法について

第2章では、コミュニティカード、年表、地図を収録し、それぞれについて参考文献等の情報を加え資料編とした。

### 本論

#### 第3章 コミュニティ創立の経緯と持続性への影響

##### 3-1 シェーカー教コミュニティ創立の背景

宗教リバイバルと宣教活動、シェーカー教コミュニティの創立方法についてまとめた。

##### 3-2-1 創立時期区分ごとの創立要因の傾向

まず、コミュニティの創立時期には約20年周期で4つのグループがあることを示した。1780-1800年をⅠ期、1800-1820年をⅡ期、1820-1840年をⅢ期、飛んで1890年代をⅣ期と設定した。

**4つの時代区分ごとにコミュニティ創立に関与した宗教運動の内容と規模、コミュニティの初期メンバーを集める影響力が異なる**ことがわかった。

##### 3-2-2 宗教運動と持続性の関係

宗教運動の種類と持続性の関係を分析した。**創立の頃の宗教運動が精神的なコミュニティほど継続年数が長期である傾向**が見られ、既往研究で指摘される宗教教義の持続性に対する好影響が、シェーカー教においても確認された。特に、最高指導者であるアン・リーの関与の有無が宗教的な影響力を左右していた。

##### 3-3-1 監督局と地域区分の関係性

まず、コミュニティの立地とその傾向を地図上で分析した。結果として東部、西部、中部、南部の4つの地域にコミュニティが集中しており、それらが時代区分によるグループ分けとほぼ一致することを確認した。また、シェーカー教コミュニティにおいて、複数のコミュニティによって構成される小規模な自治組織である監督局についてはそのエリア分けが4つの地域区分とほぼ一致することがわかった。

##### 3-3-2 監督局・拠点コミュニティと持続性の関係

監督局の所属コミュニティ数と持続性の関係、全てのコミュニティの代表で監督役である拠点コミュニティの持続性について分析した。**複数のコミュニティが所属する監督局ほど平均継続年数が長く、無所属のはごく短期で解体**することがわかった。また、拠点コミュニティは時代とともに変遷し4つのコミュニティが務めたが、その平均継続年数はそのほかのコミュニティの平均の2倍以上であった。**拠点コミュニティは長期継続することが確認された。**

##### 3-4 小結

第3章では、コミュニティの創立期に関連する事項について分析した。コミュニティの創立時期と地域にほぼ一致する4つのグループを確認したほか、創立期にみられる宗教運動の活発さに応じてコミュニティの継続年数に差が現れることを確認した。宗教運動の活発さは宗教教義の影響力と相似であることから、宗教教義が宗教共同体の長期持続の要因だとする既往研究と矛盾しない分析結果が得られたと言える。

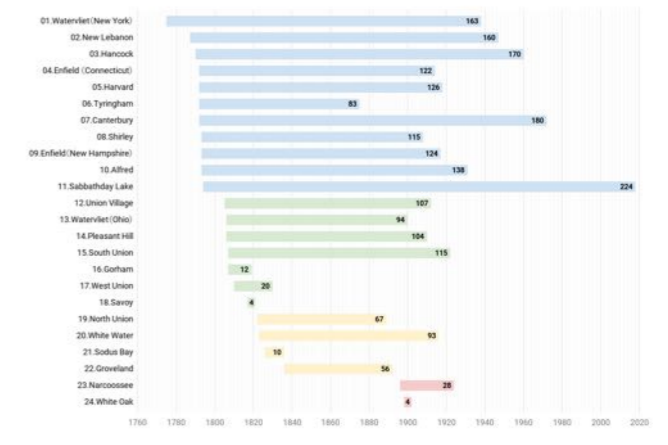


図1. 創立年から解体年

#### 第4章 コミュニティ運営の諸要素にみる多様性

##### 4-1-1 人口規模と持続性の関係

コミュニティの人口規模を最盛期の人数と総ファミリー数によって評価し、持続性との関係を調べた。

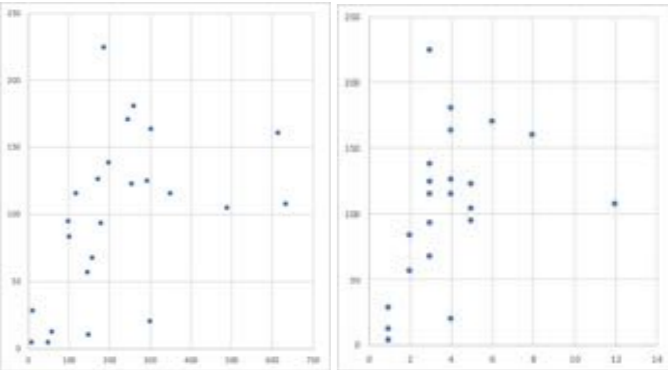


図2. 最大人口と継続年

図3. ファミリー数と継続年

**最盛期の人数と総ファミリー数の両方において、数が多いほど長期継続する傾向**が見られる。100年以上コミュニティが継続するためには、最盛期の人数が100人以上かつ総ファミリー数が3以上という条件が見出された。

##### 4-1-2 男女比と年齢構成の偏向が持続性に与える影響

既往研究において、多くのシェーカー教コミュニティに共通して**女性教徒の割合の増加と若年・中年成人教徒の減少傾向**が指摘されている。その傾向にあったコミュニティについて持続性に悪影響を与えた実例を確認した。特に、孤児の受容れが未成年の人口増加の原因であったが、未成年は成人時にコミュニティを離脱できる制度があるために若年成人教徒の獲得に苦心した例や、成人男性教徒の不足から重役に就く教徒が選任できず、コミュニティの運営体制が崩壊した例があった。

##### 4-2-1 水源の必要性

立地条件の一つとして、コミュニティと水源の関係を分析した。正確な数地が判明しなかった1例を除く23コミュニティ全てが、何らかの水源に隣接していたことが確認された。**基本的に自給自足生活を営むシェーカー教にとって水源への隣接は必須であった**と考えられる。



## 4-2-2 農地の確保

農地の広さと肥沃さについて分析した。肥沃さについては客観的評価が難しいため、農地が豊かでなかった事による実害の記録について確認した。結果として、農地の広さに傾向や持続性との関係は見られなかった。土地が肥沃でなかったコミュニティについては、農業以外の工芸産業や機械産業を構築できた場合には長期持続したが、生業が行われなかった、あるいは生業に関する記録が残っていないコミュニティについては2つのコミュニティが20年未満という非常に短期で解体した。**良い農地が確保できない状況でコミュニティを創立すると、場合によっては非常に早期の段階でコミュニティを放棄することになる**ということが示された。

### 4-3-1 コミュニティの生業の傾向と特殊例

次に、コミュニティの生業についてその品目の傾向と特殊な事例を確認した。主要な生業については半数以上のコミュニティで行われた種子産業・製菓業・シスター達の手作りによる工芸品販売業が挙げられ、これらが財政をさせていた実例も確認した。一方で、特に1860年代の南北戦争の頃には種子産業が衰退して、コミュニティが財政的に落ち込む時期があった。特殊な産業としては印刷出版業があり、**印刷出版業が行われたコミュニティは長期持続する傾向が確認された**。出版物がきっかけで興味を持った人間からコミュニティへの参加申し込みが相次いだ事例があり、出版業を営むことが外部への宣教の役割を果たした。このような人口の補填が長期継続の要因の一つであったことが示唆された。

### 4-3-2 産業における俗世の人間との接触

シェーカー今日は非教徒との接触を厳しく制限する規則を設けた一方で、特に人口減少が現れ始めた頃から、外部の労働者を雇ったり、外部の人間に農地を貸し出したりしていた。これが、コミュニティ内の風紀を乱す原因となったことが長老達などによって指摘されている。

### 4-4-1 トラスティーによる財政運用・管理の問題点

財政問題について、特に財産運用係のトラスティーが悪政を行なって浪費をし、財政難に陥る場合や、トラスティーが共有財産を横領してしまう場合について分析した。特に**後先を考えない土地購入や建物の改装による負債が、コミュニティを財政的に疲弊させ解体へと繋がった事例があったことから、コミュニティの持続性に致命的な悪影響を与える可能性があるものと決定**した。

### 4-4-2 財政運営における工夫

トラスティーによる悪政や横領の被害を受けて、上長へ収支報告を義務付けたコミュニティがあった。この効果については参照できた資料の中では判断不可能であった。

### 4-5 小結

コミュニティの運営の要素4つについて、それぞれの傾向と持続性に関わる実例を分析した。実例を見る中で4つの要素の接点や相互作用している点が発見されたため、運営の要素は独立したものではなく相関関係にあり、一つの大きな体系を持つことがわかった。

## 第5章 コミュニティ解体の経緯

### 5-1 解体の経緯の傾向

**コミュニティを解体に至らせた最終的な要因は、①人口減少、②運営体制の崩壊、③財政難、④外部・環境の問題の4つのパターンに分けられる**ことがわかった。また、継続年数を見ると①人口減少によって解体したコミュニティは長期継続している傾向、④外部・環境の問題によって解体したコミュニティは短命である傾向がわかった。

### 5-2 コミュニティの解体が他のコミュニティに与える影響

コミュニティ解体後の教徒の移籍を確認したところ、移籍はほとんどの場合同一監督局内で行われていることがわかった。特に、監督局のリーダーコミュニティは他からの移籍を数多く受け容れており、これらは皆長期持続したことが明らかとなった。

### 5-3 小結

コミュニティの解体の最終的要因は4種類に定まった。また、一つのコミュニティの解体による教徒の移籍は、他のコミュニティにとって人口増員という点で持続性に好影響を与えたことが分かった。

## 第6章 考察と今後の展望

### 6-1 第3章の考察

監督局のリーダーコミュニティが長期継続した理由について、第5章で確認した解体に伴う監督局内への教徒の移籍があると考ええる。また、拠点コミュニティが殊に長期継続した理由として、第4章で確認した出版業による宣教効果と新規改宗者の獲得が要因と考える。いずれも、一時的な人口増員によって、人口減少による解体を先延ばしにできたのではないかと考察する。

### 6-2 第4章の考察

第4章について、各節で取り上げた要素が教徒の意識とどのように関係していたかを考察した。意識の低下の結果として、未成年のコミュニティ離れが恒常化し、人口減少に繋がった。また、トラスティーによる悪政や横領は、規律を遵守する意識の欠如や、財政運用という実際的な問題に意識が傾倒したことによる。また、意識を低下させる要因としては、外部労働者との交流による風紀の乱れが挙げられる。

### 6-3 第5章の考察

解体の要因について、大きく3つのフェーズが重なり合う形でコミュニティの一生の各段階に作用することが推測される。最初のフェーズの要因が存在しなかったり、あるいは何らかの方法で乗り越えられた場合には、次のフェーズへと順番に移ってゆく。要因を克服できなかった時点でコミュニティが解体する、というモデルが、コミュニティの解体要因に対して当てはまると考察する。

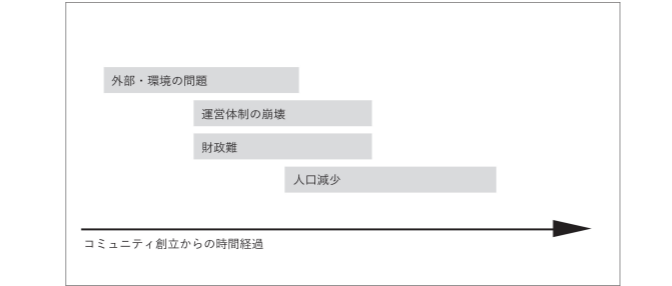


図4. 解体要因の遷移

### 6-4 全体の考察

全体を俯瞰して、第5章の解体から第3章の創立まで遡っていくと、コミュニティの解体要因に至るルートをいくつか確認した。コミュニティの運営の要素は、コミュニティを生存させるための要素であると同時に、コミュニティを解体へと導く要因でもある。つまり、コミュニティの生死がかかっている重要な構成要素であると考えられる。この運営の要素を総称してコミュニティ構造と称した。運営の要素はコミュニティ構造内部で相互作用しており、また解体の要因に直接影響するものである。コミュニティ構造に影響を与えうるのは、創立時における宗教運動とシェーカー教全体の組織構造である。

宗教運動は宗教意識の面に大きく作用するため、影響を与える要素は人口変化程度止まろうが、組織構造は、宗教教義よりもさらに実際的な問題の処理としてコミュニティ構造を調節する働きがあると考えられる。例えばこの動きはコミュニティ間の教徒の移籍や、殖産目的の土地購入、印刷業の移管、ミニストリーによる財政の監督体制など様々な形で実現する。組織構造の機能がシェーカー教コミュニティを持続させ、共同体としてのシェーカー教全体を生存させたもう一つの要因なのではないかと考察する。

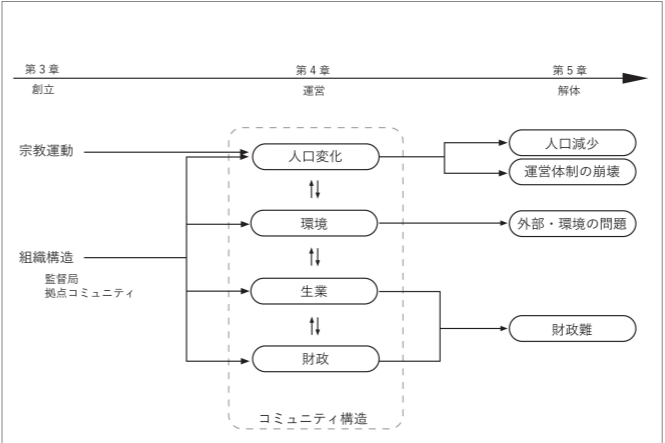


図5. コミュニティの一生

## 結論

本論文では、コミュニティの創立から解体までの諸段階にて現れる要素を分析し、コミュニティの持続性への影響を確認した。諸要素は決して独立したものではなく、相互作用によって成立しているため、解体への影響や持続性との関連は一つの要素だけを分析しても明示できない。しかし、いくつかの傾向と可能性については実例を通して指摘することができた。また、創立から解体までの要素の影響のルートを辿ることによって、一般に言われる宗教教義の影響以外に、組織構造による要素の調節機能を用いることで、特定の恣意的に選ばれたコミュニティを長期持続させた可能性を考察した。

## 図版出典

- 参考文献 [9] をもとに筆者作成
- 参考文献 [9] をもとに筆者作成
- 参考文献 [9] をもとに筆者作成
- 筆者作成
- 筆者作成

## 参考文献・資料

- = Shaker Village of Pleasant Hill Library にて入手
- [ 共同体論 ]
- [1] Yaacov Oved, *Two Hundred Years of American Communes*, Transaction Publishers, 1987
- [2] Dolores Hayden, *Seven American Utopias*, The MIT Press, 1979
- [3] Richard Sosis, Eric R.Bressler, "Cooperation and Commune Longevity," *Cross-Cultural Research*, Vol.37 No.2, May 2003, Sage Publications
- [4] 月尾嘉男・北原理雄『実現されたユートピア』、鹿島出版会、1980年
- [5] ● Robert S. Fogarty, "American Communes, 1865-1914," *Journal of American Studies*, Vol.9 Issue2, 1975, American Studies,

- [ シェーカー教コミュニティ論 ]
- [6] Sherene Baugher, Suzanne M. Spencer-Wood Eds, *Archeology and Preservation of the Gendered Landscapes*, Springer Science + Business Media, 2010
- [7] Priscilla J. Brewer, *Shaker Communities, Shaker Lives*, University Press of New England, 1986
- [8] ● Edward D. Andrews, *The Community Industries of the Shakers*, Porcupine Press Inc. 1972

No.12	Union Village (Wisdom's Paradise)	継続年数	107年	Ⅱ期
創立		運営		
創立 - 解体年	1805-1912年	最盛年・人数	1840年 304人	
経緯	宗教リバイバル→宣教活動→改宗→集結	人口構成	初期は人口少、ファミリー増設に伴い急増 / Mount Lebanon, Grovelandより移籍受入	
宗教運動	The Great Kentucky Revival/ 宣教活動			
教区	Union Village	ファミリー数	4 (Church/North/West/South)	
詳細	・1802年に宗教リバイバルを機に地域のプレスビテリアン派牧師がシェーカー教へ改宗 ・教会へ宣教師を派遣し教会の会員ほとんどが改宗 ・1805年に集結	立地	Armo Lake(湖)/Shaker Creek(小川)のそば	
		近隣都市	Lebanon - 東6.5km	
		環境・施設の開発		
衰退		産業	箒 / 園芸種子 / 医療用ハーブ / ハーブ薬 / 雑貨 / バスケット / 整形木材 / 農業 / 園芸	
経過	多額の負債と人口減少が原因で解体が決定	通商・取引		
解体後の土地	1912年に同胞教会が土地を買収			
教徒の移籍	ほとんどが老人だったため Canterbury から世話役が派遣され断くは Union Village にとどまったが、最終的に Canterbury へ移籍	財政	Mount Lebanon から South Union を経て派遣された財政指導役がホテルや墓地、オフィスの改修、土地購入に数財し財政難に陥る	
位置	地図			
図版				

- [ シェーカー教コミュニティの基本情報 ]
- [9] Stephen J. Paterwic, *Historical Dictionary of the Shakers*, Rowman&Liittlefield, 2017 (Second Edition)
- [10] Edward D. Andrews, *The People Called Shakers*, Oxford University Press, 1953
- [11] Robert P. Emlen, *SHAKER VILLAGE VIEWS: Illustrated Maps and Landscape Drawings by Shaker Artists of the Nineteenth Century*, University Press of New England, 1987
- [12] Martha Boice, Dale Covington, Richard Spence, *Maps of the Shaker West*, Knot Garden Press, 1997
- [13] Clay Lancaster, *Pleasant Hill -Shaker Canaan in Kentucky*, warwick Publications, 2001
- [14] Kim A. McBride, "The Importance of Ordered Landscape at Pleasant Hill Shaker Village: Past and Present Issues," *Archeology and Preservation of the Gendered Landscapes*, Springer Science + Business Media, 2010
- [15] ● F. Gerald Ham, "SHAKERISM IN THE OLD WEST," Graduate School University of Kentucky, 1962
- [16] ● Stuart Murray, *SHAKER HERITAGE GUIDE BOOK Exploring the Historic Sites , Museums & Collections*, Golden Hill Press, 1994
- [17] ● Richard C. Borges, "The Canterbury Shakers: A Demographic Study," *Historical New Hampshire*, vol.48 Nos.2&3, 1993
- [18] ● David R. Starbuck, "Documenting the Canterbury Shakers," *Historical New Hampshire*, vol.43 No.1, 1988
- [19] Edward D. Andrews, *The Community Industries of the Shakerss*, Porcupine Press Inc., 1972
- [20] Priscilla J. Brewer, *Shaker Communities, Shaker Lives*, University Press of New England, 1986
- [21] Stephen J. Steinr, *The Shaker Experience in America*, Yale University Press, 1992
- [22] Charles Nordhoff, *The communistic Societies of the United States*, John Murray, 1875
- [23] 藤門弘『シェーカーへの旅』、住まいの図書館出版局、1992年